

料金後納

ゆうメール

育脳寺子屋本部・MAC — 算数&ソロバン・書写・英語・国語

2013. 10 . 1

MACNEWS

〒616-8156

京都市右京区太秦西野町20

TEL 075-871-0374. FAX 075-882-3777

Eメール mac.terakoya@gmail.com

URL <http://www.mac-terakoya.com>

今月号の内容

※ MACの授業システムが教育本で紹介されました！！

※ 松田先生旅行記（エジプト編）

紹介された内容は、



育脳寺子屋（株式会社育脳寺子屋 MAC 京都市右京区 <http://ikunouterakoya.com/>）は京都に本部を置く能力開発教室。この特徴だが、90分間（幼稚園児は60分）の授業のなかで、数多くの教材を使って学習する。そろばん、立体パズル、切り絵、点描写、音読（読みきかせ）、塗り絵、ひらがな・カタカナ練習、間違い探し、物語記憶など。90分授業のなかで7～8種類もの学習をする。最初の1カ月くらいは、細かく学習のやり方を説明する必要があるが、1カ月もすると教材を渡しておくだけで、後は、自分の好きな順番で課題をこなしていけるようになる。家庭教師や個別指導の弊害として、講師が教えすぎるため、その場では分かったような気になるが、テストをしてみると散々という場合がある。育脳方式では、自分自身で学習を進めていくため、自立型の学習ができるようになっていく。

1988 年から OECD（経済協力開発機構）が始めた PISA 学力テスト（Programme for International Student Assessment）というものがある。どうして、OECD が教育に乗り出しているか不思議な気もするが、各国の「経済成長」を促進するための基礎条件として、こういった事業に取り組んでいるということである。

じゃあ、この PISA 学力テストでは、どういった問題が出されるかということだが、できるだけ知識を実生活の様々な場面で活用できるかどうかをテストされる。

例えば、以下のような問題である。

為替レートの問題

シンガポール在住のメイリンさんは、交換留学生として 3 カ月間、南アフリカに留学する準備を進めています。彼女は、いくらかのシンガポールドル（SGD）を南アフリカ・ランド（ZAR）に両替する必要があります。

為替レートに関する問 1

メイリンさんが調べたところ、シンガポールドルと南アフリカ・ランドの為替レートは次のとおりでした。

1 SGD = 4.2 ZAR

メイリンさんは、この為替レートで、3000 シンガポールドルを南アフリカ・ランドに両替しました。

メイリンさんは南アフリカ・ランドをいくら受け取りましたか。

答え :

為替レートに関する問 2

3 カ月後にシンガポールに戻る時点で、メイリンさんの手持ちのお金は 3,900ZAR でした。彼女は、これをシンガポールドルに両替しましたが、為替レートは次のように変わっていました。

1 SGD = 4.0 ZAR

メイリンさんはシンガポールドルをいくら受け取りましたか。

答え :

為替レートに関する問 3

この 3 カ月の間に、為替レートは、1 SGD につき 4.2 ZAR から 4.0

ZAR に変わりました。

現在、為替レートが 4.2 ZAR ではなく 4.0 ZAR になったことは、メイリンさんが南アフリカ・ランド をシンガポールドルに両替するとき、彼女にとって好都合でしたか。答えの理由も記入してください。

問 1 の答え

12,600ZAR

日本の正答率 79%、OECD 平均は 80%。

問 2 の答え

975SGD

日本の正答率 74%、OECD 平均は 74%。

問 3 の答え

メイリンさんにとって好都合です。

4.2ZAR の時は、約 928SGD にしかありませんが、4.0ZAR の時は 975SGD になるので、約 47SGD の得になります。

日本の正答率 43%、OECD 平均は 40%。

日本の無答率 22% OECD の無答率 17%

PISA 学力テストの対象年齢は高校 1 年生なのだが、上記の問題は、日本なら中学 1 年で習うレベルの問題である。しかし、問 3 のように文章題として出題されると、途端に正解率が低くなる。

やはり、これは単に計算力を鍛えるだけではなく、読解力も鍛えなければならない。そういった意味でも、育脳寺子屋教室のように

いろいろな教材を使うことは、さまざまな能力を開発できると思う。

そうは言っても、パズルなんかしても、全く受験の役に立たないと思われるかもしれない。しかし、最近の就職適性検査では、パズルなどで空間認識能力もテストされるのである。

最初にも書いたが、私は FedEx という外資系の会社で働いていた。多くの外資系の会社がそうであるように、FedEx も新入社員はほとんど採用しない。少なくとも 98% 以上は中途採用である。書類選考の後、面接が何回かあり、「ぜひ採用したい」と思った人にだけ就職適性検査を受験してもらう。

就職適性検査はパソコン上で行われ、前述のような計算問題以外に、パズルのような問題、心理テストといったものが組み合わされて行われる。いくつもの評価項目があるのだが、どれか一つでも基準に達しなければ不合格となる。

例えば、計算能力は高く、心理テストの結果も非常に良好。ただ、パズル問題だけが基準に満たなかった。こういう人もいる。しかし、どれか一つでも基準を満たさなければ不合格。中途入社で、ぜひ採用したいと思うような人だから、前職の営業成績が抜群だったような人もいる。しかし、パソコンの就職適性検査に合格しなければ絶対ダメ。どんなに営業本部長が「彼を採用したい」と言っても不合格になる。こういったシステムが確立していた。適性検査のテスト自体、世界的な外資系人材コンサルティング会社が開発したものだから過去の膨大なデータに基づいているものだ。

今後、ますますグローバル化が進展することを考えると、今の日本で OK と判断されるだけの能力では、将来、困ったことになる可能性もある。携帯電話では、2013 年の夏モデルではガラケーの New Model がなくなったそうだが、携帯電話や電器製品だけではなく、教育でもガラパゴス化を避ける必要がある。

全く違う大リーグのコーチ！

あっ、これ指導法の話です。(M A Cの授業での生徒指導法に大いに関係あり)

文芸春秋に前中日のコーチ権藤氏と元大リーガーの吉井氏の対談が載っていました。

吉井氏によれば、大リーグのコーチは、質問するまで何も教えてくれない。ニューヨーク・メッツの最初の投手コーチは、「俺はお前のことは分からない。お前のことを知っているのはお前自身なんだから、お前の方からコーチの俺に教えてくれ」と言われ面食らったと。

権藤氏も、アメリカの教育リーグでコーチングを学んだ時「Don' t over teach(教えすぎるな)」コーチは教えすぎずに、選手が自ら気づいて、体験するまで我慢強く待っているのが仕事だ、ということを読んだと。

結論として、両氏とも

「結局、人から教えられたことは、すぐ忘れてしまいますからね。自分で気づいて自分で工夫して獲得したものしか、いざという時には使えない」と。

如何でしょうか？

スポーツでも、勉強でも同じことではないでしょうか？

教えすぎは、その子の本来持っている能力を伸ばすことはないのです。

(海外旅行記) ~風のブーツに履きかえて

第②回 エジプト(埃及)

『ピラミッドの頂上から、エジプト四千年の歴史が諸君を見ている』——ナポレオン

アッサラーム・アレイコム（こんにちは）。

この春に気球爆発事故があったと思いきや、ジャスミン革命の余波でいまだ政情不安定なエジプトですが、私が訪れた10年ほど前は、全くのどかで平和な、酷熱の国でした。

とにかく暑いのは周知の通りで、滞在した六月は連日40℃強、ルクソールでは50℃も超えたとか。けれど現地の人々は、何食わぬ顔で平然と過ごしている（長い民族衣装で日焼け防止）。観光客ならなおさら炎熱対策が大事だと痛感したものです。

そんな避暑目的もあって、私が一番気に入ったのが海辺の都——アレキサンドリア！

ここはかのクレオパトラが生きた、地中海沿岸の風光明媚な国際文化都市です。潮風香り、異国情緒に映えて、イスラム文化と(対岸からの)ヘレニズムが融合した独特な景観を呈していま

す。他の町とはひと味違った雰囲気、たちまち魅了されました。

一方首都のカイロでは、やはりピラミッドが印象的です。

思っていたほど大きくはないが、バスから一目見えた途端もう妙な胸騒ぎが...

紺碧の空をバックにして、端然と居座った、その静謐な姿。

砂漠の多い乾いた風土には、このようにさっぱりとした、抽象的な幾何学形がふしぎと見合っています。同時にこの大規模な造形にこそ、歴代のファラオの強大な権力、不死への憧憬、そしてエジプト数千年の歴史がまとめて具現しているのだと直覚しました。(因みにギザのピラミッドですが、前方には KFC と二階にピザハットのビルがあります。実はこのエアコンの効いた店内から、スフィンクスと三大ピラミッドが一望できるとは…何とも皮肉なこと)

この旅で忘れられないのは、総勢 50 名以上ものエジプト人と知り会ったことです。彼らと接してみると、陽気でノリがよく、穏和なことがわかりました。そうして親切な人が多い。道を訊けばまず倍くらい応対が返ってくるし、地下鉄の車内で、たとえば立ち寝をしていたら空いた席をすすめてくる。

ある男性は、鉄道窓口でもめていた私に切符を快く工面してくれ、通りすがりのおじいさんは道案内の上に手持ちの果物までくれました。違う所に降ろしたタクシー運転手の代りに、素早く所定の場所へ(無賃で!)送ってくれた運転手もありました。その他、宿泊先で知り合ったスタッフ初め、地元の大学生や労働者、若い父親、勉学青年、はてはアヤしいごろつきまで、何

ー 5 ー

ともバラエティ豊かな面々と楽しくつき合ったのを覚えています。

それでは、今回はこの辺で。～アシューフック・バアデーン。

笑い衄) : 向こうの食べ物屋は、『Taverna(たべるな)』と呼ばれています(ギリシャ語で「食堂」の意味)。アレキサンドリアでは、最後の a の電飾文字が消えた『Tavern(たべるん?)』という看板を見かけました。食べるの食べないの、どっちやねん?

Q. 次は
どの国?

[関連語] **カサブランカ**、**マラケシュ**、ベルベル人、ジブラルタル海峡、
ミントティー(アツツアイ)、タジン(鍋)、など… [首都] **ラバト**
[通貨] ディルハム

